

カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

ニュースレター (第6回)

本邦研修の帰国後報告会、ミャンマー現地でも開催!

CREATEの第1回本邦研修(2014年10月18日~10月31日)から帰国したメンバーを中心に、去る11月3日(月)10:00-12:00、BERDCの2階会議室にて帰国報告会が行われました。この報告会にはCDT全員が参加し、日本での研修内容についての報告に興味深く耳を傾けていました。同報告会は、DEPT副局長のDaw Khin Myo Myint Kyuの話から始まり、その後、「カリキュラム・アウトライン」、「DPT」、「校正」、「著作権」、「印刷と製本」、「根岸小学校訪問」、「教授法」といった7つのテーマについての発表、最後に副局長が纏めるというものでした。発表の中で、特に印象に残った点として以下のような意見がありました。



- 研修ではこれまで経験したことのない新しい体験をした。この体験を今後のプロジェクト活動に積極的に活用していかなければならない
- もっとコンピュータに精通し、自由に操作できるようにならないといけない
- 資料がとてもよく準備されており、私たちの理解を十分に助けてくれた
- 校正作業では、複数で細心の注意を払い間違いのないようにしていかなければいけない
- 著作権の重要性を認識した。ミャンマーの著作権についても早速勉強したい
- ユニバーサル・デザインやユニバーサル製本について十分に考慮しなければいけない
- 日本の児童は自信をもって回答していたし、課題について責任をもって取り組んでいた。これは見習うべき点である

上記のような意見が出されたことを考えると、参加者の皆さんは本邦研修でたいへん有意義な時間を費やされ多くのことを学ばれたことが分かります。

教科「農業」のゆくえ?

現在、ミャンマーの初等中等教育において「農業」と呼ばれる教科が実践されていることはご存じの通りです。小学校では週2コマが設定されていますが、この背景には2012年に大統領からの指示があり、その指示に従って急遽教科書を編纂し、翌2013年から全国一斉に実施されたという経緯があります。学習内容を見てみると、小学校段階でさえ、土壌の名称、化学肥料の名称、農業機械の各部名称など、かなり専門的・技術的なものに偏っており、加えて、名称を覚えることが中心となっていることから、他教科以上に暗記学習を強いるような内容になっていると言えます。そこで、新しい初等教育のカリキュラム・フレームワークからは「農業」を外すという方針で議論を続けてきました。

しかしながら、農業CDTはじめ、現行の教科書編纂に関わった農業大学の教授陣らが中心になって、今年7月頃からロビー活動を開始し、教育省をはじめ、農業省やその他関係省庁に新しいカリキュラム・フレームワークには農業が含まれていないことに対する抗議文を送付しました。これによって、教育省は様々な省庁や機関から批判を受けているようです。この状況は、ついに教育大臣の耳にも入り、DEPTカリキュラム課長と農業CDTが大臣に説明を行うことになっているそうです。説明を聞いて

た大臣がどのように判断するかによって、新しいカリキュラム・フレームワークに「農業」が導入されるか否かが決まってくると思われます。

来年度から教科「民主主義」緊急導入か！

去る11月14日（金）、DEPTカリキュラム課課長から、「大統領は、来年度から小学校4年生～11年生（高校2年生）において『民主主義』という教科を導入する意向で、それに伴う教科書作成を今後2カ月で行う方針である。そのため、CDTの優秀な人材を2カ月間そちらの作業に専念させたい」という連絡を受けました。ただし、来年度からの教科「民主主義」の導入は現行カリキュラムの範囲内で実施されますので、プロジェクト活動と直接の関係はないと理解しています。

以上